

令和 6 年 6 月 20 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K12505

研究課題名（和文）ヴィザ政策を巡るポリテイクスーインドネシア、タイ、オーストラリアの比較研究

研究課題名（英文）The Politics of Visa Policy: Comparative analysis of Indonesia, Thailand and Australia

研究代表者

相沢 伸広 (Aizawa, Nobuhiro)

九州大学・比較社会文化研究院・教授

研究者番号：10432080

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：アジアにおける経済統合の中で、人の移動が増加する結果、どのような新たなポリテイクスが生まれたのか政治分析を実施した。コロナ禍で現地調査が引き続き制限されていたため、ヴィザ政策にかかる過去の歴史を紐解き、タイにおける海外投資誘致政策及び外国人政策の結果、日本企業、日本人社会の影響力が日本の外交政策に与えた影響を分析した。続いて、コロナ禍を経て、人の移動がいとも簡単に制限される実態が露見したことで、改めて、出入国管理政策の帰趨を決する「投資誘致」と「人材育成」「国民統合」の政治的なアジェンダが国家運営においてどのような使われ方をしているのか、歴史的変遷分析し執筆した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

出入国管理政策については経済学、社会学において極めて多くの研究蓄積がすすんでいたものの、国際政治、地域研究ではその研究は遅れ、国際移動を中心とする人の移動について、アジア太平洋地域における新しい研究成果を提示することが可能となった。また、地域全体の少子高齢化がすすみ、人材獲得競争が国際政治上の極めて重要な政治課題になることがはっきりしているため、社会的にもこれまでの経験を結晶化させ、その成果を共有していくことに高い社会的意義が存在する。

研究成果の概要（英文）：We conducted a political analysis of what new politics have emerged as a result of the increased movement of people in the context of economic integration in Asia. Since field research continued to be restricted due to COVID, we analyzed the past history of visa policies, the results of policies to attract foreign investment and foreigners in Thailand, and the influence of Japanese companies and society on Japan's foreign policy. During this period, the reality that the movement of people was easily restricted through COVID. Once again, we analyzed and wrote about how the political agendas of "investment attraction" and "human resource development," "Nation Building" which determine the outcome of immigration policy, are used in the management of the nation.

研究分野：東南アジア地域研究、国際関係

キーワード：移民政策 出入国管理 デジタル化 経済成長 ナショナリズム 国家建設 国際秩序 パンデミック

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

一方で経済的な地域統合が進み、他方で、各国社会の経済格差が、経済ナショナリズムを惹起する現代のインド太平洋地域において、ヴィザ政策はどのような戦略的判断、および政治的プロセスを通じて決定されるのだろうか。この問いを明らかにするために、インド太平洋地域において出入国管理政策の中でも、送り出しが主たる政治課題となるインドネシア、受け入れが主たる焦点となるオーストラリア、そして、送り出しと受け入れとの双方が同じレベルで重要となるタイの3カ国における国籍制度、ヴィザ制度の戦略的活用と政治過程を比較研究する。

2. 研究の目的

経済のグローバル化、地域化の時代において、外国人労働者、外国投資、観光収入のいずれかに経済的に大きく依存する国家の政府は、国家の浮沈のみならず、自らの政権維持を賭して、外国人の出入国ルール調整に腐心する。現代の国家が有する最大の調整手段は国籍ルールの変更であり、柔軟かつ頻繁に用いられる調整手段はヴィザ制度の戦略的活用である。地域統合の深化により、人の移動方法や移動理由が大きく転換する現在、国民の再生産と労働力の再生産はもはや同一ではない。その結果、国民の定義や労働力の移動を決定づける国籍ルールやヴィザ制度の変化をめぐる国内、地域的、そしてグローバルな政治対立はますます先鋭化する。本研究は国籍及びヴィザ政策をめぐる政治対立のメカニズムを明らかにするため、インドネシア、オーストラリア、タイにおけるその政治過程を比較研究する。

3. 研究の方法

本プロジェクトでは、研究期間中にコロナ禍に見舞われたため、大幅に研究手法・期間を修正する必要に迫られた。初年度に実施した豪州国立大学との国際研究集会を通じた共同研究、聞き取り調査、また、インドネシア、タイにおける現地地調査を経て、主として文献調査とオンラインインタビューを重ねることで研究を進めた。予定とはことなる研究手法をとったことで、想定していた実地調査の期間は減少せざるを得なかったものの、オンラインインタビューの手法を確立したことで、当初の予定以上に多くの人物へのインタビュー、また当初の計画以上に多くの複数国のインタビューを実施することが可能となり、研究成果の社会的なフィードバックが可能となった。

4. 研究成果

大きく分けて三つの成果が挙げられる。

第一に、出入国政策、ヴィザ政策についてインドネシアのユドヨノ大統領自身への調査研究に成功し、多民族・多宗教国家において、いかにして国民統合を守りつつ、自国の人材育成に投資と邁進しなければならないのか、大統領の視点、景色について、本研究で明らかにすることができた。海外で活躍する同胞をどのようにして自国の経済発展に結びつけるか、国内の多民族社会と海外の同胞との関係が民族間対立につながらないよう、どのような政策手段を講じる必要があるのか等、大統領への直接のインタビューなしには知り得ない、研究データの入手に成功し、結果を Takashi Shiraiishi, Nobuhiro Aizawa, Jun Honna, Wahyu Prasetyawan eds. *Standing firm for Indonesia's democracy: an oral history of president Susilo Bambang Yudhoyono*, World Scientific, Singapore, February 2024. として発表した。

次に、出入国管理政策における安全保障と経済成長のバランスの間でのポリティクスについて、とりわけタイのクーデタ後の政治状況の詳細の研究を通じて明らかにした。クーデタ後の政治的安定のためには、即座に外国人を安全保障上のリスクと認定し事実上の国境封鎖を行うというのが、歴史上の通説であったが、この事例はその反証として、クーデタ後にこそ、ハイレベルな人材、観光収入を獲得するために、政権内部の安全保障担当部局と経済回復担当部局の間の熾烈なポリティクスが展開されることを明らかにした。この成果は Nobuhiro Aizawa, "The Japanese Business Community as a Diplomatic Asset and the 2014 Thai Coup d'État in John D Ciorciari and Kiyoteru Tsutsui" eds. *The Courteous Power: Japan and Southeast Asia in the Indo-Pacific Era*, (University of Michigan Press, 2021) pp172-196. として発表した。

そして、本研究を通じて、日本のみならず、米国や豪州、インドネシア、タイの出入国政策の変化を比較研究しつつ、コロナ禍で変化をよぎなくされたヴィザ政策のもつ政治的価値について、複数国において研究を実施し、相沢伸広、「脅威かヒーローか？ - コロナ禍と米国の外国人労働者」, 笹川平和財団, 2020年8月. (<https://www.spf.org/jpus-j/views-from-inside->

[america/20200828.html](#))として発表するとともに、オーストラリア国立大学と2019年に主として入国管理政策担当者を招聘し、国際パブリックフォーラムを開いた。ヴィザ政策、出入国管理政策が、2019年以前の経済成長と同期する政策群から、危機管理、しかも、政治的な課題とは異なる理由での危機管理が地政学的競争と重なる、まったく新しい事象について、いち早く研究をまとめることが可能となった。以上の成果は上記の論文、書籍で発表するのみならず、パブリックフォーラムにおいて、日豪そして東南アジア各国との出入国管理政策にかかる研究のネットワーク、プラットフォームを構築する成果につながった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Nobuhiro Aizawa	4. 巻 30
2. 論文標題 Bringing the Young and the Tech into Indonesia's Digital Education Politics and the Geopolitical Impact	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Asia-Pacific Review	6. 最初と最後の頁 66～91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/13439006.2023.2254634	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 相澤伸広	4. 巻 Vol.75 Sep./Oct.
2. 論文標題 米国と東南アジア すれ違いの構図 - 米中競争と南北問題の間で	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 30-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 相澤伸広	4. 巻 第3巻
2. 論文標題 インドネシアの安全保障観	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 安全保障研究	6. 最初と最後の頁 21-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ケオラ スックニラン、相澤 伸広	4. 巻 68
2. 論文標題 一帯一路とラオスの経済関係多角化の悲願	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア研究	6. 最初と最後の頁 41～53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11479/asianstudies.68.1_41	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 相澤伸広	4. 巻 7/8月号
2. 論文標題 ミャンマー問題 ASEANの蹉跌 - 交渉失敗の原因と今後果たし得る役割を探る	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 112 - 117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 相澤伸広	4. 巻 135巻5月号
2. 論文標題 東南アジアに迫る中国のワクチン外交 - 独立性と多角化を貫いたインドネシアとタイ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中央公論	6. 最初と最後の頁 126-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 相沢伸広	4. 巻 -
2. 論文標題 脅威かヒーローか? - コロナ禍と米国の外国人労働者	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 笹川平和財団 日米関係インサイト Views from Inside America	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 相沢伸広	4. 巻 -
2. 論文標題 H-1B ヴィザをめぐる米国政治	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 笹川平和財団 日米関係インサイト Views from Inside America	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nobuhiro Aizawa	4. 巻 3
2. 論文標題 How immigration will change Japanese politics	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 East Asia Forum Quarterly	6. 最初と最後の頁 28 - 29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

[学会発表] 計18件 (うち招待講演 16件 / うち国際学会 13件)

1. 発表者名 John G. Dale, Nobuhiro Aizawa
2. 発表標題 Working Human Rights into Digital Technology Policy: Contesting Bureaucratic Futures of Japan's Automated "Society 5.0"
3. 学会等名 117th ASA Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Nobuhiro Aizawa
2. 発表標題 The Courteous Power: Japan and Southeast Asia in the Indo-Pacific Era
3. 学会等名 East-West Center in Washington's Indo-Pacific Seminar Series (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Nobuhiro Aizawa
2. 発表標題 "Japan and Asia" To "Japan in Asia"
3. 学会等名 Commemorative Event of 70 th Anniversary of Friendship between Japan and Cambodia, Institute for International Studies and Public Policy (IISPP) Royal University of Phnom Penh (RUPP) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Nobuhiro Aizawa
2. 発表標題 “Japan and Asia” To “Japan in Asia”
3. 学会等名 Commemorative Event of 70 th Anniversary of Friendship between Japan and Cambodia, National Institute of Diplomacy and International Relations(NIDIR) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Nobuhiro Aizawa
2. 発表標題 Japan in Southeast Asia
3. 学会等名 Foreign Service Institute, State Department USA (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Nobuhiro Aizawa
2. 発表標題 Japanese Interests in Southeast Asia
3. 学会等名 Foreign Service Institute, State Department USA (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Nobuhiro Aizawa
2. 発表標題 Japan and Korea in Southeast Asia: Roles, Influences and Interests
3. 学会等名 The Centre for Southeast Asia Research (CSEAR) University of British Columbia (UBC) (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Nobuhiro Aizawa
2. 発表標題 Japan and South-East Asia: What ' s at stake for New Zealand?
3. 学会等名 Victoria University of Wellington (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Nobuhiro Aizawa
2. 発表標題 THE COURTEOUS POWER: JAPAN AND SOUTHEAST ASIA IN THE INDO-PACIFIC ERA
3. 学会等名 Indo-Pacific Foreign Policy and Defense Series Webinar and Book Launch, East West Center Washington DC. (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 John G Dale, Nobuhiro Aizawa
2. 発表標題 Digital Authoritarianism: A Comparative-transnational Case Study of China ' s State Surveillance and U.S. Surveillance Capitalism
3. 学会等名 Society for the Study of Social Problems Virtual Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nobuhiro Aizawa
2. 発表標題 JAPAN AND ASIA IN THE POST PANDEMIC ERA: SELECTIVE COOPERATION VS STRATEGIC COMPETITION IN SOUTHEAST ASIA
3. 学会等名 Munk School of Global Affairs & Public Policy, University of Toronto (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nobuhiro Aizawa
2. 発表標題 The 30th Anniversary of Cambodia's Paris Peace Agreements A Reflection on the Agreements' Enduring Commitments and Continued Relevance
3. 学会等名 USIP (United States Institute of Peace) (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 AIZAWA, Nobuhiro
2. 発表標題 Japan in Southeast Asia: It's Strength, Weakness and Challenges
3. 学会等名 Foreign Service Institute, US State Department (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 AIZAWA, Nobuhiro
2. 発表標題 Southeast Asia and Regional Political Challenges
3. 学会等名 Leading for Change Forum & eDialogue (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Aizawa, Nobuhiro
2. 発表標題 Chinese Competition with Japan and the U.S.: Implications for Southeast Asian Nations
3. 学会等名 Sasakawa USA (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Aizawa, Nobuhiro
2. 発表標題 The U.S., Japan, and Southeast Asia in the Age of Great Power Competition
3. 学会等名 Johns Hopkins University Edwin O. Reischauer Center for East Asian Studies Webinar Series (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Aizawa, Nobuhiro
2. 発表標題 Southeast Asia's Anglophone Elites and U.S. Foreign Policy
3. 学会等名 Wilson Center, Asia Program, Washington DC, USA (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Aizawa, Nobuhiro
2. 発表標題 Japan's engagement in Southeast Asia under the Suga administration
3. 学会等名 Southeast Asia Roundtable, Asia Foundation, Washington DC (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 相澤伸広	4. 発行年 2022年
2. 出版社 千倉書房	5. 総ページ数 303
3. 書名 「米中競争時代のインドネシア」竹中治堅編著 『「強国」中国と対峙するインド太平洋諸国』	

1. 著者名 Nobuhiro Aizawa	4. 発行年 2023年
2. 出版社 JPIC	5. 総ページ数 512
3. 書名 Indonesia and the Concept of a Western Pacific Union, in A Western Pacific Union; Japan's New Geopolitical Strategy	

1. 著者名 Nobuhiro Aizawa and Keola Souknilanh	4. 発行年 2023年
2. 出版社 JPIC	5. 総ページ数 512
3. 書名 Unlocking a Landlocked Nation- The Geopolitics of Laos and the Western Pacific Union, in A Western Pacific Union; Japan's New Geopolitical Strategy	

1. 著者名 相澤伸広	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東洋経済新報社	5. 総ページ数 31
3. 書名 「インドネシアの西太平洋連合構想」北岡伸一編『西太平洋連合のすすめ：日本の新しい地政学』	

1. 著者名 ケオラ・スックニラン、相澤伸広	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東洋経済新報社	5. 総ページ数 32
3. 書名 「脱内陸国の地政学 - ラオスの西太平洋連合構想」北岡伸一編『西太平洋連合のすすめ：日本の新しい地政学』	

1. 著者名 Nobuhiro Aizawa	4. 発行年 2021年
2. 出版社 University of Michigan Press	5. 総ページ数 25
3. 書名 The Japanese Business Community as a Diplomatic Asset and the 2014 Thai Coup d'etat in John D Ciorciari and Kiyoteru Tsutsui eds. The Courteous Power: Japan and Southeast Asia in the Indo-Pacific Era	

1. 著者名 相沢伸広	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 1056
3. 書名 「インドネシアの国家建設 分裂の危機と克服の政治史」田中明彦、川島真編『20世紀の東アジア史』	

1. 著者名 Takashi Shiraishi, Nobuhiro Aizawa, Jun Honna, and Wahyu Prasetyawan	4. 発行年 2024年
2. 出版社 World Scientific Publishing	5. 総ページ数 352
3. 書名 Standing Firm For Indonesia's Democracy: An Oral History Of President Susilo Bambang Yudhoyono	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Ambitions for Japanese Immigration	開催年 2019年～2019年
--	--------------------

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------